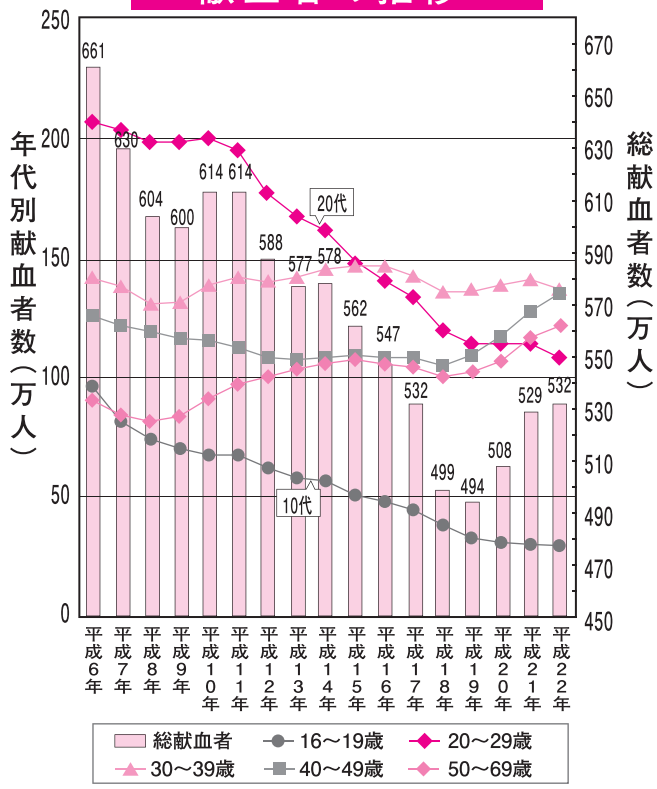


献血者の推移



人工的につくりえない血液 安全かつ安定供給に向けて



1 血液事業の現状
 ○血液製剤の使用状況
 献血といつと、交通事故など不慮の事故でけがを負った時に使われるイメージがありますが、ほとんど(約8割)はがんなどの定期的な輸血が必要な患者の治療に使われ、年齢別にみると50歳以上の患者が約85%を占めています。
 ○献血の課題
 近年の献血者の推移をみると、10代・20代の若年層の献血者が減少しています。献血に協力いただいた方々の約78%は50歳未満で、血液の使用状況からみても健康な若い世代が高齢者医療の多くを支えているといえます。
 しかし、この数年の献血者数の減少は、特に20歳代の層が顕著であり、献血を支えていく上で大きな課題となっております。

医療技術が大幅に進歩した現代でも、人間の生命を維持するために欠くことのできない血液は、人工的につくり出すことができません。広島県には、毎日、がん治療などで定期的な輸血を必要とする人が300~500人おられ、これらの人たちの生命を献血が支えています。そのため県では、毎年度「広島県献血推進計画」を策定し、安全な血液製剤の安定供給に取り組んでいます。今回から、血液事業の現状も併せて、その取り組みについてシリーズで紹介いたします。

献血推進2014「中期目標」

項目	目標
若年層の献血者の増加	10代※の献血率を6.4%まで増加させる。 20代の献血率を8.4%まで増加させる。
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を50,000社まで増加させる。
複数回献血の増加	複数回献血者を年間120万人まで増加させる。

※10代とは献血可能年齢である16~19歳を指す。

2 国の取り組み
 国では、将来にわたり血液の安定供給を行える体制を確保するため、平成26年(2014年)度までの目標を設定し(献血推進2014)、献血を強力に推進しています(左表参照)。

3 県の取り組み
 広島県では、国が実施する「献血推進2014」に呼応するとともに、安全な血液製剤の安

定供給の確保等に関する法律第10条第4項に基づき、平成26年度広島県献血推進計画を策定しました。現在の献血率のまま少子高齢化が進むと、需要がピークを迎える平成39年(2027年)には、献血者約101万人分の血液が不足すると推計されています。

7月25日、広島市の地下街シャレオ中央広場で普及啓発イベント「2014ひろしま温暖化ストップ!フェア」(主催:広島市地球温暖化対策地域協議会・広島市)が開催された。今年度は、より多くの方に興味関心を持ってもらおうと、日中は子ども連れ家族、夕方は仕事帰りの社会人の参加を想定して、イベント日時を夏休み初旬にし、正午から19時とした。



ケティング株式会社が洗剤の改良によりすすぎ回数を減らして、洗濯機の使用時間が短縮されることや、ハンドワイパーで部屋の掃除をすると掃除機の利用時間の削減につながることを呼びかけた。また、家庭全体の省エネに関しては、広島ガス株式会社が給湯と一緒に家庭で発電する燃料電池システムを紹介した。

きてみんさい!シャレオでクールシェア

さまざまな視点で省エネを提案



科学実験教室では、客席に向けて空気砲が撃たれ、空気の動きを体感した。

オープニングイベントとして、広島市の消防音楽隊と江波山気象館の科学実験教室が開催され、心地よい音色や空気砲、物を浮かせる実験などで会場をにぎわせた。ブースエリアでは、「きてみんさい!シャレオでクールシェア」をキーワードに、団体、企業や行政機関が、さまざまな視点で夏の過ごし方のアドバイスや省エネ機器の紹介、家庭での省エネ取り組み事例などを紹介した。生活に身近なところでは、広島市地球温暖化対策地域協議会が省エネ診断の実演や現在展開している事業をしたほか、花王カスタマーサー

業について、県が参加者に呼びかけた。同協議会長の篠原氏は、「大型台風、気温上昇、局地的な大雨や都市部のゲリラ豪雨など、気象の変化が進んでいる。地球温暖化防止のために私たちができることはたくさんある。今日は多様な視点で情報提供を行っている。見て、知って一緒に温暖化を食い止めていきたい」と思いを語った。引き続き、啓発事業や省エネ取り組みの継続の環の広がりに期待したい。(脱温暖化センターひろしま)

献血キャラクター けんけつちゃん ご当地版(広島県)



定供給の確保等に関する法律第10条第4項に基づき、平成26年度広島県献血推進計画を策定しました。今回は、この計画について紹介いたします。(広島県健康福祉局業務課)



平成26年度の献血功労者表彰において、推進に寄与した団体として当協会が厚生労働大臣感謝状を授与された。

厚生労働大臣感謝状を授かる 長きにわたる献血活動を推進

環境協

当協会は、県衛連時代から長きにわたり、職員を対象として献血を推進してきた。途中、会場や日程の都合などにより実施を見送った時期があるが、社会貢献活動に力を入れ始めた平成21年度に再開。血液が不足する傾向にある8月と1月に実施している。実施の際は、職員はもとより協会本部の近隣住民や広島県看護協会、広島トヨタ自動車などの周辺の事業所にも呼びかけて、毎回30名以上の協力をいただいている。今年度の授賞伝達式は、7月23日に広島県赤十字血液センター(広島市中区千田町)で開催され、厚生労働大臣表彰のほか、広島県知事、日本赤十字社から県内の総勢73の団体及び個人に対して長年の献血の推進、普及活動に対して表彰状及び感謝状が贈られた。また、当日は、献血推進ポスターの優秀作品の表彰も併せて行われ、16点の優秀作品が選ばれた。当協会では今年度も、8月21日と1月7日に献血を予定し、多くの人たちに協力を呼びかけていく。